# 区長と区民の意見交換会の報告

## 1　主旨

平成 23 年度に 27 か所の出張所・まちづくりセンターにおいて、「保坂区長と語る車座集会」と題し、テーマを特定しない区民からの幅広い意見交換を行う場として開催した。

本年度は、車座集会の実施状況も踏まえ、テーマを特定し、区民と区長がそれぞれのテーマに基づき、より深い意見交換を行う場として、5 月より実施しており、これまでの開催結果について、報告する。

※10 月開催分までは第 3 回審議会で、11 月開催分は第 4 回審議会で報告済。

## 2　開催結果概要

| テーマ・開催日等 | 内容等 | 担当所管部 |
|---|---|---|
| 「誰もが安心して暮らし続けられるために、私たちができること」<br><br>平成 24 年 12 月 8 日(土)<br>午前 9 時 30 分～12 時 25 分<br>北沢タウンホール | 高齢者・子どもから障害者まで、すべての区民が安心して暮らし続けられる地域社会をつくるには、どのような取組みが必要か、参加者同士のグループ討議や区長との意見交換を行う。なお、発表された意見は、「地域保健医療福祉総合計画」を策定する際の議論の素材として活用する。<br>【内　容】<br>①少人数グループでの話し合い（ワールド・カフェ方式）<br>②グループワーク<br>③グループ発表と、区長との意見交換<br>④参加者と、区長との意見交換<br>【参加者】20 名（うち無作為抽出 16 名、公募 4 名） | 保健福祉部 |
| 「地域の「絆」の強化　～地域における地縁やつながりの強化～」<br><br>平成 24 年 12 月 8 日(土)<br>午後 2 時～4 時<br>三茶しゃれなあど | 社会構造の変化やそれに伴う暮らし方の変容に伴い、人々の地域における帰属意識や地縁・つながりについての考え方がさまざまに変化してきている。災害対策や子ども、高齢者等を含めた地域での支えあいなどのさまざまな視点から、「地域の絆」をキーワードとして、「世田谷らしい地域社会」づくりに向けて、地縁やつながりをどう強化していくかについて意見交換を行う。<br>【内　容】<br>①テーマについて参加者と区長との意見交換<br>【参加者】28 名（申込者 30 名、うち欠席者 2 名） | 生活文化部 |

※開催結果の概要については、区ホームページにて公表している（別紙参照）。

「誰もが安心して暮らし続けられるために、私たちができること」
をテーマとした区民意見交換会の開催結果について

１　開催日時　平成２４年１２月８日（土）
　　午前９時３０分から１２時２５分

２　開催場所　北沢タウンホール　１２階スカイサロン

３　開催内容　①少人数グループでの話し合い（ワールド･カフェ方式）
　　②グループワーク
　　③グループ発表と、区長との意見交換
　　④参加者と、区長との意見交換

４　参加者数　２０名（うち、無作為抽出１６名、公募４名）

５　主な意見等
（１）少人数グループでの話し合い（ワールド･カフェ方式）
（２）グループ発表と、区長との意見交換

## （1）少人数グループでの話し合い（ワールド･カフェ方式）

| |
|---|
| **ワールド･カフェ①　「あなたがひとり暮らしのお年寄りになったとき、どんな不安や心配ごとがありますか（また、現在ありますか）」** |
| ・孤独死、寝たきり、認知症、医療サービス、年金・お金、犯罪・詐欺の心配<br>・デイホームや施設には、もっと利用者の立場に立ち、サービスの質を高めてほしい<br>・地震などの災害とその際の避難<br>・緊急時に、誰に助けを求めればいいのかわからない<br>・近所への遠慮やプライドがあり、気軽に助けを呼べない<br>・電気器具や配線の故障などのとき、修理してくれる人がいない<br>・普段の生活（買い物など）を手伝ってほしい<br>・話し相手がなく、ひとりでご飯を食べるのは寂しい<br>・インターネット・パソコンなどを使った、つながりを持つ方法を教えてほしい<br>・楽しいことを一緒にできる仲間・居場所がほしい<br>・地域活動があるのは知っているが参加しづらい<br>・地域交流がなく近所の人を知らない<br>・マンションでのひと付き合いはあるが、昼間は人がいないので不安<br>・子どもの将来が心配<br>・家族に迷惑をかけたくない |
| **ワールド･カフェ②　「大規模地震が起きたとき、自分で避難できない高齢者・障害者・子どもたちのために、あなただったらどういうことができると思いますか」** |
| ・ご近所の人の救助、声かけ（地域にお年寄りや障害者などがいることの把握が必要）<br>・父母が帰宅できない子どもの救助<br>・災害時の知識を教える<br>・独居老人の身内に連絡<br>・余力がある人が数名でチームとなり、近所のお年寄り等に手を貸すようなつながりをつくる<br>・日頃からの災害に向けた備え、準備をしておく<br>・外国人も助ける<br>・透析患者や小児など医療が必要な人たちも、普段からの交流、コミュニケーションがあれば助け合える<br>・日頃から自分から地域の交流に行き、近所にどういう人（高齢者、障害者、子ども）がいるかを把握する<br>・日頃からどういう方が移動に困るのか知るべき<br>・行政が持っている情報を公開するべき<br>・地震のときだけ助け合うことはできない |
| **ワールド･カフェ③　「地域でのつながりや支えあいが、改めて求められています。あなたのこれまでの経験や能力を活かして、どのような地域活動に参加してみたいですか」** |
| ・ヘルパー移動支援の経験を生かしたい<br>・金融機関での仕事をしているので、生活設計のアドバイス<br>・カメラマンなので写真を撮って広報活動の手伝い<br>・子どものかかわり・つながりを広げる<br>・地域で災害時の知識を伝えていく活動<br>・近所との付き合い、地域交流を広げ、相談できる環境を整える<br>・振り込め詐欺防止の普及啓発を広める<br>・忙しくてなかなか参加ができない（やる気があっても）<br>・長く住んでいても、地域とのつながりや接点がない<br>・町ごとのイベントが多いとコミュニティを広げることができる<br>・地域イベントに行きたいが、仕事が土日。平日にもやってほしい<br>・名前が知らなくても参加できるような、負担にならない近所付き合いや活動<br>・お祭り、商店会の行事に参加する |

## （2）グループ発表と、区長との意見交換

| |
|---|
| テーマ「高齢者・子どもから障害者まで、すべての区民が安心して暮らし続けられるために、私たちと区ができることは何でしょうか」 |
| ①私たちができること |
| ②区ができること |
| ③区長の意見・感想要旨 |

1班

| | |
|---|---|
| ① | ・一人ひとりが持っている経験、能力やノウハウをプールできるようなデータベース（＝能力バンク）をつくり、組織化し、実際の力につなげていく。<br>・実名で、人が協力し合えるような場所、集まりをつくる（＝リアルフェイスブック）。 |
| ② | ・能力バンク登録者へのサポートの仕組み化を構築する。<br>・リアルフェイスブック登録者が社会貢献をしたときに、それを他の人たちもわかるような仕組みづくり。社会貢献した人に対して「いいね！」のフィードバックが、可視化される仕組みづくり。 |
| ③ | これからは、区の職員は、区民の方の声を先回りするとか追いかけるとかいう発想から、むしろ、区民の方の発案した企画や活動を、コーディネータとして下支えする、というふうに展開していくべきなのではないか。「能力バンク」というアイデアは、その考えにかみ合う部分がかなりあると思う。 |

2班

| | |
|---|---|
| ① | シェアードスペース（＝空き地、空き家、人が滞留できる場所）という空間を、地域の中心軸にすえて、地域性を新たに開拓する。シェアードスペースは、①災害時の避難場所、②日常の居場所。あいさつから人間関係を築いていける場所、③地域のつながりを盛り立てるお祭りを行う場所。 |
| ② | 未使用の区有地を、期間限定でもいいので、使えるようにしてほしい。 |
| ③ | 区有地を、地域のコミュニティのために提供しようということは、今流れになってきているので、実現できる部分はきっとあると思う。 |

4班

| | |
|---|---|
| ① | 平素より地域であいさつをかわし、イベントに積極的に参加して地域のコミュニケーションを図る。そういったコミュニティのソフト面での取り組みをしていかなければ、災害時や緊急時の助け合いはできない。 |
| ② | ・さまざまな媒体である情報の提供。<br>・人と人をつなげるような、さまざまなお祭りやイベントを開催する。いろんな世代の人が参加しやすい演出をする場づくり。 |
| ③ | 災害時との関係でも、地域というのはとても大事であり、さらに多世代が関わる、つながることが大事だという意見である。災害時だけ手を取り合って親しく動くというのは無理だと思う。日常のなかで楽しさを共有していろいろなことを一緒にやってみるというつき合いを土台に、いざというときの関係があるのだと思う。 |

6班

| | |
|---|---|
| ① | 若い人、子どもたちが将来安心して生活できるよう、みんなが責任を持って次の世代のことを考える意識改革をする。具体的には、地域との交流、近所との交流が非常に大切になってきているので、とにかく挨拶をしていく。 |
| ② | みんなが集まりやすく、集まりたいと思える癒される場所つくり。その場所で、学習意欲や世田谷に住んでいるという満足感が得られるようなイベントや企画を行う。 |
| ③ | 癒される空間、居場所ということでは、区では地域共生のいえ、ふれあいの家というものがあり、地域共生のいえでは高齢から子育て世代まで世代関係なくいろいろな取り組みを行っている。そんな雰囲気のところを、区としても増やしていけたらと考えている。 |

7班

| | |
|---|---|
| ① | ・声をかける。挨拶をする。<br>・自分の考えを発する。<br>・自発的に参加する。 |
| ② | ・イベントやコミュニティ関連情報をみんなに周知・宣伝をする。<br>・よい取り組みを継続させる。<br>・交通（アクセス）、駐輪場、道（スピードバンプ）などのインフラ・ハード面の整備。 |
| ③ | ・挨拶、声かけをするというのが、一番簡単なコミュニケーションづくりなのだと改めて思った。これからの時代は、住みやすく、いい区にするためには、地域住民の皆さんの参加がとても大事なので、自発的な参加は大変ありがたいと思う。<br>・二子玉川の駅周辺において、「ゾーン 30」という、エリア全体を 30 キロ制限にする指定を、警視庁が実施する予定である。 |

8班

| | |
|---|---|
| ① | ・周りとの付き合いを広めること。挨拶や軽いつきあいを始める。<br>・日頃から災害に備えること。防災訓練に参加し、防災倉庫や避難場所などについて確認をしておく。<br>・地域運営のための組織づくり。町会の活性化や、PTAとの連携など。 |
| ② | ・つきあいを広めるきっかけづくり。街コンの開催、シェアードスペースの整備、公共スペースでの飲食可など、コミュニティ形成の支援。<br>・区民が防災訓練にどんどん参加できる仕組みづくりと、正しい情報を発信すること。<br>・地域組織への支援制度の整備。 |
| ③ | ・つきあいを広げるというなかで、街コンが出てきたが、若手職員からも「世田谷まちなか観婚」の提案があった。これらが、うまくシンクロできればいいと思う。<br>・区の公共施設の中でも、空いている使用していない時間帯なども活用して、皆さんが使えるようにしていきたいと思う。 |

※人数調整で班を合併したため、抜けている班名があります。

「地域の絆の強化」～地域における地縁やつながりの強化～
をテーマとした区民意見交換会の開催結果について

１　開催概要

（１）開催日時　平成２４年１２月８日（土）　午後２時～４時

（２）会　　場　三茶しゃれなあど　スワン・ビーナス

（３）参加者数　２８名（申込者３０名、欠席者２名）

（４）内　　容

テーマについて参加者と区長との意見交換

【テーマに係る題材】

① 地域での災害対策にどう取り組むか

② 地域社会における多様な生活スタイルとの折り合い

③ 地域生活における「音」の問題をどう考えるか

（５）当日質問者数

延べ２６名

（６）意見・質問書提出者

１０名（要回答４名、意見のみ６名）

２　主な意見とコメント、意見・質問票による意見と回答、区長のまとめの要旨

別紙のとおり

＜別紙＞

1　主な意見とコメント

題材（1）地域での災害対策にどう取り組むか

区長より題材説明

・　地域での災害対策、災害への備えは、地域コミュニティの豊かなつながりと非常に関連があるテーマである。この題材をもとに地域の絆の強化を考える。

| | |
|---|---|
| 意見要旨 | ①　まちづくり協議会で、地震が起きた時、周囲に自分（家族）の無事を知らせるために、玄関にかける「無事です」カードというものを作った。できるだけ多くの人が持てば協力し合い救助に行けると考えている。<br>②　区内には、国立の医療機関があるが、防災対策のしおりには、これら医療機関との連携が盛られていない。<br>③　定年式や還暦式のような案内を出し、町会に参加する手立てなどを知らせるとともに、若手のパワーが欲しい地域の組織と、会社一本だったが定年後は地域活動に参加したい方の橋渡しをお願いしたい。<br>④　高齢者でも、災害時にはある程度自力で対処できる状態にしておかなければならないと思う。区には様々な活動をしている高齢者クラブがあるが加入率は低い。より盛んにしていきたいと考えている。<br>⑤　町会としては、避難所にはあまり頼りすぎてはいけないと常々話をしている。食料の備蓄が１日分であることや一時集合所、広域避難場所には区職員は常駐していないということをもっと広く周知して危機感を持つようなことをしてはどうか。<br>⑥　区境の場合、隣りの区の避難場所の方が近いという状況がある。区が違っても公的に区同士の協定を結んでおいていただきたい。<br>⑦　防災無線が聞こえにくい地域がある。日を決めて防災無線を流し、一斉に外に出るなどの取り組みで、近所の顔が見える関係づくりができ、災害時に助け合えることになるのではないか。その意味でも、防災無線の充実をお願いしたい。 |
| コメント要旨 | ①　具体的な提案として受け止める。地震で家が崩れてしまったときに、その中にいらっしゃるのかどうか、カードで知らせるということは大変重要な情報だと思う。<br>②　区内の大規模病院からは防災用緊急時の井戸を整備したいなどの相談を受けている。自衛隊中央病院は、災害時には全国の自衛隊員の後方支援施設となるため、自治体の防災上の位置付けはできない。協定は結んではいないが、災害時等には力を貸していただけることになっている。成育医療センターについては、難病の子どもたちの医療を行う機関である。広域避難場所の隣地であり、敷地の中に逃げ込めるような連携を検討していく。<br>③　町会・自治会は比較的年齢の高いベテランの方達が運営されている。企業の方や若い世代が災害時にどう動いてくれるのかを課題にしたい。<br>④　高齢者クラブの日々の活動は災害だけではなく、介護予防の点からも大きな力を発揮 |

| | |
|---|---|
| | している。区としても応援していきたい。<br>⑤　備蓄食料のこと、区職員がいざというときどんな動きができるのかを明瞭に区民に示し、地域単位で顔と顔を確かめ合って相談をしていくことが大事だと考えている。<br>⑥　２３区では平成８年に相互援助協定を締結しており、避難所の相互利用も可能となっているので、災害時にはそれぞれ近いところへ避難できる。<br>⑦　防災無線は、遮音性の高い建物が増えたという物理的な事情があり屋内では聞こえにくい。区ではどの程度聞こえるか音量調査を行い、新たに２本設置する予定である。また、何か鳴ったなといった場合、電話で放送内容を確認できるシステムを導入した。聞こえにくい地域については、ある程度把握しているので、可能な限り無線の本数を増やしていきたい。 |

題材（２）地域社会における多様な生活スタイルとの折り合い

区長より題材説明

・　地域のつながりの中で近隣のトラブル、必ずしもうまくいかない部分をどうしたらよいか。地域の力、地域の絆といったときに、その一番基礎の近隣関係の中での課題を考える。

| | |
|---|---|
| 意見要旨 | ①　区では、向こう三軒両隣のコンタクトを密にしようという呼びかけは少ないのでは。また、現役世代の参加を考慮していく必要がある。<br>②　区と地域住民あるいは商店街などとのつながり、この連携を強化しなければならない。十数年前、名刺には、「打てば響くまちづくりを目指して」とあった。区は、まちづくりのために何をするかを考え、連携・交流を図って、そのことが防災や地域社会、隣との連携、音の問題など課題の解決につながるのではないか。また、高齢社会で一人世帯が増える。<br>③　子どもたちがグローバルに活躍できるように、地域で育てていこうという活動をしているが、場所の確保に苦戦している。地域活動団体などに対してインキュベーション的な形で場所を貸していただけないか。<br>　世田谷区は文化レベルが特に高く、区内にはたくさんの人材がいる。世田谷の関係資本、人的資本、知的資本を最大限に活かす場を提供いただきたい。<br>④　単身でマンション暮らしだが、両隣は分からない。子どももいなければＰＴＡとして隣の方とのつながりを設けることもできない。地域に後から越してきた者に対して、意見交換会があることをもっとアピールしていただきたい。<br>⑤　壮年の方や高齢者が地域で参加する機会が少ない。散歩しながら区の掲示板などを気軽に読めるような場所を増やしてアピールしたらどうか。<br>　地域の高齢者が、気楽に趣味などで安く利用できるような状況から絆というのが増えていく。講師を雇って、高い授業料でやっていることも聞く。公共施設は内容をチェックして貸出す、地元を優先にするなどしっかり監督して欲しい。 |

| | |
|---|---|
| コメント要旨 | ①　サラリーマンなども土日は地域にいることもあるので、住民同士が交われるような取り組みを進めていきたい。<br>　また、若い世代の力をいざというときに活かす連携を進めており、区内大学とは協定を締結しているが、高校などにも広げていきたいと考えている。<br>②　区と住民の皆さんが深くつながっているということが重要である。一人世帯の増加に関して、男性は孤立化が心配される。大きな区政課題だ。<br>　若者も相当孤立して悩んでいる。ぎりぎり絶望したときに少しこれでほっとできるねという方策も考えていきたい。<br>③　地域には、豊富な経験や技術、知的集積のある方が多い。区民が集うあるいは教えることができる場所を、施設以外にも、例えば空きスペースなども活用できるよう発掘していく。<br>④　車座集会やこの意見交換会のような場を継続していくことが大事だと思っている。どのように地域に入ったらいいのか、その縁をつなぐ取り組みを実現していく。<br>⑤　掲示板も重要な情報伝達ツールである。必要な情報はものすごく多く、区のおしらせ、広報板、インターネットの３つをうまく組み合わせて必要な情報をお届けする。<br>　場所・施設に関しては、なかなか利用ができないことは承知しており、工夫をしていきたい。営利の利用は禁止しており、地域の方々に地域活動で使用していただくことを基本としている。 |

題材（３）地域生活における「音」の問題をどう考えるか

区長より題材説明

・　保育園や幼稚園、学校、公園などからの子どもたちの声に苦情がある。やはり子どもには気兼ねなく遊ばせたいし、ある程度声を出したり、笑ったり、泣いたりというのは誰もが当たり前で私たちもそう育ってきた。

　他方、静かに暮らしたいという権利があることも分かる。

　私自身悩んでいる。コミュニティとしてどうやって問題を解決するか、ご意見を伺いたい。絆というものの中身が問われる問題だと思う。

| | |
|---|---|
| 意見要旨 | ①　子どもの通う保育園で園庭の音がうるさいという方、子どもは社会の財産だという考え方、双方の価値観が合わないので、行政に、ガイドラインのようなものをつくっていただきたい。<br>　園ごとの制約など、行政でまず現状を把握すること、その情報を開示していただきたい。<br>　また、地域の方には、ぜひ近くの保育園に足を運んでもらいたい。子どもたちがどのように遊んでいるのか、どういう状況なのかを知ってほしい。<br>②　後に周りに住んだ人たちが子どもがうるさいというのはとんでもない話で、子どもの声が聞こえるから元気をもらえる。<br>　建築確認申請の際に、業者に対して近隣の情報提供を指導することはできるのでは。<br>③　区のことで苦情を言う人は王様で、役所は命令を聞かなければならないという関係が錯覚としてあるとすれば大間違い。苦情等は、記録にしてオープンにし、衆知を集 |

| | |
|---|---|
| | めて客観的にジャッジするというような基本的ルールがあったほうが良い。<br>④　隣近所との付き合いを好まない人も増えており、そのために東京に移ってきたような方も大勢おられる。当町会では町会加入のお勧め活動をしているが、放置すると、まちそのものが劣化し、知らない人ばかりになってしまう。大震災も契機と捉えて、若干の顔見知り、強制しない勧め方をしている。<br>⑤　音の問題は、人それぞれ価値観が違い、結論がなかなか出にくい。他の国ではどうしているのか。法律やそれに対する教育はどうしているのか、参考になるのではないか。<br>⑥　苦情を言う人は少数であり、そのために全て対応するのは過剰対応ではないか。情理を尽くして話し合いをするということしかないと思う。一つの条例が一つの解決策であるように、話し合えば心が通じる可能性があると思う。<br>⑦　当町会ではラジオ体操の音に団地の一人の方に苦情を言われた。団地自体と町会とはすごく良好な関係で、対話、会話をしたり、気持ちよく交流している。日ごろの交流が大事と思う。<br>⑧　中学校の時計が５分早いとか、遅いとか文句を言う人がいる。学校が先にできていることや自分も子どもだったときは大きな声で騒いでいたこと、今の子ども達が同じことをやってどうして悪いのかということを町会の毎月の会報で書いたら文句が収まった。<br>　行政から町会に加入するよう働きかけてほしい。 |
| コメント要旨 | ドイツでも同じような問題があり、騒音から守られる権利というのが法律にあり、ハンブルクの幼稚園が裁判所で閉鎖命令を受けた。これに対して親たちが座り込むなどして議論が盛り上がり、一昨年ベルリンで、子ども施設から出る声は騒音の中から外すという条例ができ、去年ドイツ連邦議会で法律が制定された。<br>ただ、日本の場合は、まずは地域の力や横のつながりで解決できないかということを考えたい。また、世田谷区としては、子どもたちの成長、発達を応援し、環境を整備するという基本を示して、苦情を言われる方に対応する。その対応はこれまでのような形ではなく、子どもの成長、発達を保障していこうという合意がとれるのかどうかということを試みてみたいとも考えている。<br>クレームを出されている方もその地域の中でいろいろ困りごとなど出てくるだろうが、そういったときに横のつながりも論じなければいけないと思う。 |

２　意見・質問票による意見と回答

（１）要回答としていただいた意見・質問（４件）

① コミュニティとして、空き家などを紹介するようなシステムを考えてほしい。

回答：　現在、世田谷区住宅委員会のご意見をいただきながら、有効活用していける仕組みづくりを検討している。

② 会場の確保が課題だ。区民会館又は区民センターの建設計画は如何か。

回答：　集会施設全体について、整備水準（地区会館の場合、半径約 500ｍごとに１ヶ所）

以上に充足している。利用時間枠の見直し、利用機会の拡大を図るなどして、少しでも区民の皆様に使いやすい施設にしていく。

③ （防災の題材の中で）「行政はすぐには来られない」⇒「すぐに来られる」ようにする対策は何か考えているか。

回答：　地震発生時、区は、出来る限り早く災害対策本部を立ち上げ応急対策活動を開始するため、対策を講じている。

しかし、災害の規模が大きくなればなるほど対応すべき事案が同時多発的に発生し、「行政による手助けはすぐに来ない（しばらく来ない）」ということを前提に、自助・共助による準備をお願いしている。

④ 会社定年世代には、地域活動に参加の潜在ニーズがあるものの、きっかけがなかなかつかめないということがある。そこで成人式のように、６０歳または６５歳になる方全員に「地域活動参加の手引き」を配るとか、式典を持つとか、橋渡しの役割を果たしてほしい。

回答：　地域活動団体と協力し、地域の魅力や地域活動を紹介する講座やイベント等の実施のほか、中高年世代向け情報誌「ＧＡＹＡＧＡＹＡ」を年２回発行する等、地域参加の促進を図っている。情報提供や参加の場や機会の提供に取り組んでいく。

（２）回答不要としていただいた意見・質問

① 保育施設等で、近くの公園などへの移動時に、出会った地域の方にあいさつをするようにしてはどうか。

② 区と住民、特に高齢の方々との交流を図るため、まちづくりに力を入れ、その活性化を発展化するような施策が必要である。１人暮らしの高齢者に対する具体的な対策が必要だと思う。

③ 避難所のトイレについて、高齢者の多い町会なので、和式が利用できない方も多い。増設してほしい。

３　区長のまとめ

地域の絆づくりには、今まで行政が手が届かなかった地域の中のさまざまな活動があり、場所が足りないという悩みもあるぐらい大変活発であることを再認識した。

災害とかもっと大きく暮らしというのは個人だけでは成立しない。

やはり知り合い、顔見知りになっていくと音の聞こえ方も変わってくるし、一人ひとりの生活とその耳に入ってくる音とは関係がないという感覚が騒音問題、近隣問題を生んでいるのではないか。地域の中でいろいろな困りごと、揉め事などについて皆さんで解決を図っていただけるような条件づくりが必要だ。

さまざまな音の問題が地域の絆と大変関連があるということを、今日改めて共有できたし、これをやれば解決するというすごいアイディアが出るような類いの問題ではないのかもしれない。しかしながら、今日さまざま意見交換をした題材は、実は日本全国の問題と思う。良い知恵を出していくモデルを、この地域の中でつくっていけたらと思っている。

# 基本構想・基本計画大綱の構成イメージ

## 基本構想

●20 年先を見据えた構想（但し社会の大きな変化を考慮し 10 年で見直す）
●区議会で議決する

世田谷区は、１９３２（昭和７）年から１９３６（昭和１１）年にかけて、世田谷、駒沢、玉川、松沢、千歳、砧の 2 町 4 村が合併して生まれ、東京都内で最も多くの人が暮らす住宅都市へと発展しました。わたしたちは、国分寺崖線や多くの河川、農地などの貴重な自然環境と地域の文化、伝統を大切にしつつ、自治を追求し、寛容で活気あふれる社会を築いてきました。

ただ金融、労働力、情報のグローバル化が進み、しかも高齢化の中で、かつてのような経済成長を前提とした社会はもはや望めません。格差や少子化、社会保障の維持、単身世帯対策などの課題に取り組むには、新たな発想が求められています。また東日本大震災と原子力発電所の事故は、災害への日ごろの備えがいかに重要で、緊急の課題であることを浮かび上がらせただけでなく、一人ひとりの生き方や地域社会に転換を迫りました。

一方で先人から受け継いだ、世田谷のみずとみどりに恵まれた住環境や、多様性を尊重してゆるやかに共存する文化、地域性を子どもや若者の世代へ引き継いでいかなければなりません。

これらの課題に立ち向かうため、わたしたちは基本構想として、今後めざす公共的なビジョンをまとめました。最長で 20 年先までを想定しています。区民が主体的に公にかかわり、地域とのつながりをさらに深めていけば、自治はより確かなものになり、きっと多くの課題を克服できると考えています。区は自治体としての権限をより広げ、計画的に行政を運営し、区民や事業者とともに、基本構想の実現に努めます。

### ○九つのビジョン

ビジョンとそれに向けた行動指針を示す

一、個人を尊重し、人と人とのつながりを大切にする

一、子育て家庭が住みたい自治体ナンバー1をめざす

一、健康で安心して暮らしていける基盤を確かなものにする

一、しなやかな復元力を持つまちをつくる

一、環境に配慮したまちづくりとライフスタイルを追求する

一、地域を支える産業を育み、職住近接が可能なまちにする

一、文化･芸術･スポーツの活動をサポート、発信する

一、より住みやすく歩いて楽しいまちにする

一、ひとりでも多くの区民が主体的に区政や公の活動に参加する

### ○区の役割

区は、基本構想の実現にむけて、次の役割を担う

・基本計画や実施計画の策定
・基本構想や基本計画等の外部評価を実施し、計画、実施、評価、それを受けた改善サイクルをつくり検証しながら進めていく
・地域行政を展開し、総合支所、出張所、まちづくりセンターなどでも区民が区民に参加する機会をつくる
・持続可能な自治体経営に向け、行政改革を進め、財政基盤を強化する
・自治体としての権限を広げるため、都区制度改革や財政自主権の確立に取り組む
・近隣自治体と連携し、広域的な課題に取り組む
・国内外の自治体との関係を深め、特色を生かし、災害時の協力体制などを築き、国際交流も進めていく

## 基本計画大綱

●基本計画の構成､基本的な考え方、枠組みを整理
●基本計画策定は、幅広い区民参加を得ながら進める

### 1　策定の背景

・人口構成、家族形態の変化、経済成長を前提とした社会のしくみの行き詰まりといった将来展望、課題認識
・区財政の見通し、公共施設や都市インフラの老朽化等の状況、自治権拡充の今後の見通し

### 2　視点　基本計画の位置づけ、基本方針

（１）位置づけ
基本構想の将来ビジョン実現のための重点政策と、分野別の方針を示す
（２）基本方針
①区民の区政参加、地域住民自治の確立
②持続可能な地域社会づくりと自治体経営

### 3　重点政策

基本構想の9つのビジョンの実現に向け、先導性、緊急性、分野横断的な政策案を示す

### 4　分野別政策

区の分野別の方針を示す

《例示》
（１）健康・福祉
（２）暮らし・活力
（３）都市基盤整備
（４）教育

### 5　その他（実現の方策）

《例示》
・行政評価のしくみの充実
・情報公開の推進と区民参加の機会と場づくり
・地域行政の推進
・持続可能な自治体経営の確保
・自治権の拡充に向けた取り組み